

幼稚園年長組 主活動名「リレー遊びをしよう」

1 本活動で人権教育を進めるにあたって

本活動では、遊びのルールを知り、互いの力の違いや個性、考え方の違いを認め、受け止めながら、共に活動する中で、目的を共有し、工夫したり、協力したりして、一緒に活動する楽しさを味わうことをねらっている。

幼児は、幼稚園生活において多くの他の幼児や教師と触れ合う中で、自分の感情や意志を表現しながら自己の存在感や他の人々と共に活動する楽しさを味わう。ときには幼児同士の自己主張のぶつかり合いによる葛藤などを通して互いに理解し合う体験を重ねながらかかわりを深め、共感や思いやりなどをもつようになる。そのために教師は、幼児一人一人が自己発揮して遊びが進められるように、意図的、計画的に環境を構成し、展開していくことができるような活動の場を提供することが大切である。

本活動においては、幼児の発言やトラブルを大切にとらえ、話し合いの場や実際にリレー遊びをして振り返る場などを設定し、友だちのやさしさや力を合わせることの大切さを味わわせ、自分や友だちの大切さやよさに気付かせたい。

2 本活動のねらい

遊びのルールを理解し、友だちと工夫したり、協力したりして、一緒に活動する楽しさを味わう。

3 人権教育を通じて育てたい資質・能力

遊びや活動を展開する中で、目的を共有し、工夫したり、協力したりすることで、自分や友だちの大切さやよさに気付く。(価値的・態度的側面)

4 指導のポイント

(1) 人権感覚を育てる上で大切にしたいポイント

- 共に活動する中で、共通の目的に向け、工夫・協力したり、試行錯誤したりしながら遊びを展開する場を設定する。
- 葛藤体験や失敗体験、また、折り合いを付けることや見通しを持って遊ぶ体験をさせながら、その過程の育ちを大切に認めていく。
- 集団の中で、一人一人の幼児が安心して自己発揮できる環境の構成を整える。
- 幼児の頑張っている姿や失敗体験などの姿を家庭に伝え、自分のよさを認めってもらったり、気持ちを受け止め励ましてもらったりすることで、自分が保護者に温かく見守られていることに気付かせる。さらに、家庭での姿を園に伝えてもらうことで相互交流を図っていく。
- 教師が一人一人の幼児に大切にかかわる姿を示すことで、人とかかわるときに大切にしなければならないことに気付かせる。

(2) 人権が尊重される活動づくりの視点

①自己存在感

一人一人の気持ちを大切に受け止め、認め、ほめ、励ましながら安定した気持ちで活動できるようにする。

②共感的人間関係

自分の思っていることを伝えることができるようになることで、相手の思いにも気付くことができ、より親しみをもちかわりを深められるようにする。

③自己選択・決定

話し合いやチーム作りで、一人一人が安心して自分の考えを発言できる場の設定を工夫する。

5 活動の流れ

(1) 指導計画

予想される幼児の活動	人権尊重の視点を踏まえた指導上の留意点等
<p>○ 自分達の知っている知識の中で自由にリレー遊びをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> トラックの内側を走っている。 誰にバトンを渡したらいいのか分からない。 	<p>○いつもやっているリレー遊びの姿を、そのまま受け止め、困ったことに気付かせる。</p> <p>○みんなが楽しく遊ぶためにはどうしたらいいか、幼児の意見を大事にしながら伝え合わせ、他の遊び同様、リレー遊びもルールがあることで楽しめることに気付かせる。</p> <p>○ルールやリレー遊びに必要なものに気付かせていく。(コーンを置くこと、チームが分かるよう鉢巻を作ること等)</p>
<p>○ 自分達で作ったチームでリレー遊びをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> バトンを渡す友だちがいなくて困っている。 アンカーが誰か分からなくなっている。 チームの人数が違って、早くゴールしている。 	<p>○幼児の困り感や疑問に思ったこと、失敗体験をする過程を大切に、みんなで話し合う場を設けながら進めていけるよう働きかける。</p> <p>○人数の違いが勝敗に影響することに気付かせ、どんなルールを作ったらよりよく遊べるか、考えを出し合わせる。</p> <p>○アンカーに目印を付けること、チームの人数を揃えることに気付かせる。</p>
<p>○ チームを決めて、リレー遊びをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> じゃんけん、くじ引き、話し合いなどの意見を、出している。 	<p>○運動会を目標に、チームとしてのまとまりを深め、行動できるようにチーム決めをする必要があることを投げかける。</p> <p>○どんな方法でチームを作ったらいいのか考えを出し合わせ、クラス全員が納得してチームを作る方法を決めることができるように働きかけていく。</p> <p>○自分の意見や思いを抵抗なく出し合えるように配慮するとともに、幼児の意見を肯定的に受け止める。</p>

○ チームで話し合っ、リレー遊びをする。 (主活動)

- どうすれば、バトンパスが、うまくいくか、話し合っている。
- 順番を忘れないようにするには、どうしたらよいか話し合っている。

○ 幼児の考えや提案をみんなで検討し合い、疑問や困り感を改善して、よりよいリレー遊びにつないでいけるようにする。

○ みんなの頑張りや思いをバトンにつなげるために、一人一人がどんな思いで走っているのか伝え合わせ、リレー遊びを進めていけるようにする。

※日々のリレー遊びの中で、幼児の発言やトラブルを大切にとらえ、かわりを深めるための活動を工夫する。

【事例1】 幼児同士のトラブルを大切にとらえた活動例

【事例2】 幼児の発言を大切にとらえた活動例

このような活動を、日々の遊びの中で繰り返しながら、リレー遊びを運動会へつなげる。

○ 運動会でリレー遊びをする。

- 自分達で準備をしている。
- 鉢巻を付け、人数を確認し、アンカーはビブスを着ている。
- 力いっぱい走ったり、友だちを応援したりしている。
- 結果発表を聞いている。
- チーム名を呼ばれたら返事をして立っている。

○ 幼児が自分達で準備をする姿を大切にしながら、安心してリレーができるよう必要に応じて支援する。

○ 友だちを応援したり自分のために応援をしてもらったりすることで、チームが一体となって取り組めるようにする。

○ 勝敗を優先するだけではなく、それぞれのチームの頑張り認め、喜びを感じとらせる。

○ みんなで協力し合う姿を認め合う場や、達成感や喜び、悔しさ等を伝え合う場を設定することで、友だちの気持ちに気付かせ、かわりを深めさせる。

○ 運動会の余韻を楽しみながらリレー遊びをする。

- 「リレー遊びをする人」と呼びかけ仲間を集めたり、参加したいと思っている年中・年少児を心よく受け入れたりしながら遊びを進めている。
- 年中・年少児に鉢巻のつけ方を教えたり、並び方やスタート位置、バトンの渡し方を教えたりしている。

○ 年中・年少児とリレー遊びをする姿を見守り、一緒に楽しんでいる姿を認める言葉かけをする。

○ 年中・年少児のお世話をしたり、ルールを教えたりしている姿をクラスに伝える。そのことを通して、自分のよさに気付かせ、自信をつけさせたり、友だちを大切にする気持ちをもたせたりしていく。

(2) 人権尊重の意識と実践力を養う活動例

主活動 「チームで話し合っ、リレー遊びをする。」

子どもの姿と設定理由

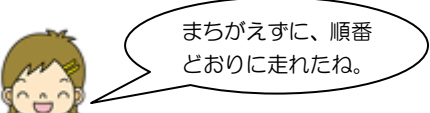
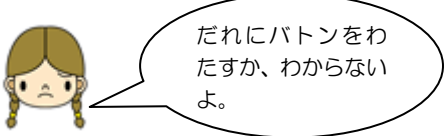


チームの中には走るのが得意な幼児もいれば、苦手な幼児もいる。また、一位になりたいという気持ちが高まり意欲的な幼児もいれば、中には意欲がもてず、消極的で自分の思いが言い出せない幼児もおり、それぞれリレー遊びに対する思いに違いがある。お互いの思いを知り、自分自身にできること、友だちにできることを考え、みんなで協力し合っリレー遊びを楽しみ、自分や友だちの大切さやよさに気づき、目標に向かって力を発揮できるように、チームで話し合う機会を設定し、リレー遊びを行うことにした。

ねらい

◇友だちとのかかわりを深め、協同して遊ぶ楽しさを味わうことができる。

人権教育で育てたい資質・能力

◆リレー遊びを通して、自分や友だちの大切さやよさに気付く。

予想される幼児の活動	○指導上の工夫・留意点 評価◇◆	備考
<p>○チームで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 上手くいっ所はどこだろう。  <ul style="list-style-type: none"> 上手いかなかった所はどこだろう。   	<p>○赤、青、黄、緑各チームの、これまでの活動の様子を、教師がしっかり把握しておき、必要に応じて、支援をする。</p> <p>○上手いかなかった所は、互いに確かめ合い、みんなで協力して話し合いが進めていけるように見守る。</p> <p>○リレーに対する思いに違いがあることをお互いが知り、それぞれが自分にできること、友だちにできることを考え、協力し合っ行動に移せるように働きかける。</p> <p>○苦手意識をもっている幼児にはリレーに対してどう思っているのか、どうなりたいたいのかをたずね、その幼児の気持ちに寄り添い、自分自身にできること友だちと共にできることを考えていけるようにする。</p>	

・どうしたら、上手にいくかな？



カいっばい走ろうね。おうえんするといいよね。



順番をおぼえよう。次はだれか、教えるといいよね。



手をのばして、バトンをわたすといいかな。

○リレー遊びをする。



〇〇ちゃんがんばれ！ここだよ。



次は〇〇くんの番だよ。出番だよ。



手を伸ばしてやったり取ったりするといいよ。

○気付いたことを、みんなで話し合う。

・緑チーム

「声をかけ合ったけど、上手くバトンがわたせなかった。」

・青チーム

「上手かった。バトンを落とさないように、手を伸ばしてやったりとったりした。」

・赤チーム

「友だちが走る時に応援し合った。がんばれた。」

・黄チーム

「走る順番を忘れないように出番を教え合った。上手かった。」

○今より、よりよくするためにはどうしたらよいか考えを出し合い、友だちと目的を共有しながら進めていけるようにする。

○自分たちのチームで考えたことを生かしながら活動をしている様子を見守り、幼児の言葉や行動等を把握しておく。

◇友だちとのかかわりを深め、協同して遊ぶ楽しさを味わっている。

○振りかえる場を設定し、走ってみてどうだったのか、走る前にチームで考えたこと等を発表させ、目標に向かって頑張っているそれぞれの姿に気付かせる。

○上手いかなかったチームが、次回への意欲がもてるよう、自分達で考えて活動していたことをほめるとともに、他のチームの考えに気付かせるなどの配慮をする。

○自分達のチームで考えたことを生かしながら、みんなで協力していたことを認め、ほめる。

◆自分や友だちの大切さやよさに気付いている。

○チームのみんなで考えたことをリレー遊びに生かした経験を、今後の様々な活動につなげていけるようにする。

バトン
鉢巻
コーン

【事例1】 幼児同士のトラブルを大切にとらえた活動例

リレー遊びを、自主的に取り組む中で、幼児同士の様々なトラブルが起こった。トラブルを、幼児同士の謝罪で終わらせず、起こった出来事や当事者の思いを、クラス全員で考える場を設定し、お互いの育ち合いの機会とした。

幼児の姿

運動会に向け、赤、青、黄、緑の4チームは好きな遊びの時間に、自主的にリレーに取り組む姿が多く見られるようになった。

赤チームのM児は、世話好きでリーダーシップをとり、走る順番に並ばせたり、順番を入れ替えたりして指示を出している。同じチームのR児はいつものように来た順番（1番）に並んでいた。M児の順番替えにぶつぶつ言っているが、はっきり自分の思いを伝えず、M児を叩いた。

自分の思いを話す。(R児)



うん。たたいた。

R児

1番に並んでいたのに、Mくんが順番を替えたから。

.....(首を振る)

戦いごっこの時、「悪者になれ」って。大きな声で怒って言われた。

教師のかかわり

- 当事者の幼児の思いを、教師自身がしっかりと受け止め、寄り添う。
- 当事者の幼児の行動や思いをクラス全員に伝え、お互いの思いが理解できるよう、活動の場づくりを工夫する。
- リレー遊びに向けた共通の思いに共感させ、幼児同士のかかわりを深め、お互いの気持ちを感じ取ることができるようにする。

- 事実を確認するとともに、R児の思いを、丁寧に聞き取る。

Mくんが、「Rくんからたたかれた。」って言いに来たけど、どうだったの？



どうして、叩いたのかな？

- R児の思いを、受け止めながら、M児とのかかわり方について聞き取る。

そうなんだね。リレーを頑張ろうと思って、1番に来ていたんだね。順番を替えられたのが、くやしかったんだね。順番を替えられ時、Mくんに、どうして順番を替えるのか、聞いた？

- R児の思いを受け止めながらM児へのかかわり方について助言する。

そう、Mくんにどうして替えるのか、聞くとよかったね。

- R児の言葉だけではなく、顔の表情やしぐさ等から思いを汲み取る。

他の遊びの時はどうかな？Mくんが一人で決めてしまうこともあるのかな？

そうかあ。Mくんが一人で決めてしまうのが嫌なんだね。

自分の思いを話す。(M児)



M児

順番を替えたからかな？
替えた方が速くなると思
った。

赤チームが、1位になりたい。

みんなで友だちの思いを考える。

たたくのはいけないと
思う。



どうしてたたいたのか、
聞くといいと思う。



M児

Rくんは、頑張ろうと思っ
て1番に来ていたのに、勝
手に、ほくが替えたから悔
やしかったって教えてくれ
たよ。

どうして順番を替えるの
かMくんも言えればいいよ。



どうして順番を替えたの
か、Rくんも聞けばよかつ
たと思う。



Mくんは、順番を替えた方
がチームが速くなるって思
ったんだよ。チームのため
に頑張っていたんだ。



R児

そうだったんだ。ほくたちの
チームもみんなで頑張ろう。



お互いの思いを伝え合いながら、リレー遊びをする。

OM児の思いを、受け止めながら聞き取る。

Mくんはどうして叩かれたと思う。
どうして、走る順番を、替えたの
かな？



そうかあ、替えたほうが速くなると思
ったんだね。チームに速くなってほし
かったのかな？

OR児の思いを想像させ、リレーを頑張りたい
という共通の目的に気付かせる。

Mくんはリレーを頑張っているん
だね。チームを1位にしたかったん
だね。でも、Rくんも、1番に来て
並んでいたよね。

OR児の思いを聞くことを支援する。

OR児、M児、それぞれの思いを受け止め、
自分の考えを出し合う場をつくる。

Rくんは走る順番を替えられた
から、叩いたそうです。みんなは
どう思いますか？



そうだね。たたくことはいけないこ
とだよ。でも何かわけがあったの
かもしれないよね。後で、Mくんは、
Rくんにわけを聞いたそうです。M
くん、教えて。

Mくんが走る順番を替えたこと
は、みんなはどう思いますか？

そうだね。Rくんも後で、Mくんに
わけを聞いたそうです。Rくん教え
て。

自分たちの考えを出し合わせながらM児
もR児もリレーを頑張りたいという共通
の目的に気付かせる。

そうなんだ。Mくんも、Rくんも、
リレー遊びで1位になりたいから頑
張っていたんだよね。気持ちは同じ
だったよね。

チームのみんなで力を合わせて、リレー遊
びをするためには、お互いの気持ちを感じ
取ることが大切であることに気付かせる。

【事例2】 幼児の発言を大切にとらえた活動例

リレー遊びをする中で、周回遅れになるチームがあった。なぜ、自分のチームが遅くなるのかというアンカーの幼児の疑問を、チームのみんなに伝えさせ、チームとしての解決策を考える機会を作った。さらに、自分たちで考えた解決策を生かしながら、チームで練習する場を設定した。

幼児の姿

運動会に向けて、毎日行うリレーの順位はみんなが気になるようで、順位を上げるにはどうするとよいのか幼児たちは考え始めている。

このような中、アンカーを走ったB児が、周回遅れで走ることに疑問を感じ、「ぼくは何で一人で走らなくちゃいけないのかあ。」と言って来た。

教師のかかわり

- 話し合いを通して、自分の気持ちを相手に伝えること、相手の気持ちを考えてみることで、友だちの思いを受け止め、どうしたらよいか考える機会にする。
- 自分たちで考えた解決策を生かしながら、チームで練習する場を通して、幼児同士のかかわりを深め、大切にされている自分を感じたり、友だちの大切さを感じたりさせる。

困ったことや気付いたことをみんなに発表する。



B児

どうして僕は一人で一番最後に走らなくちゃいけないのかあ。

Aさんが、バトンもらっても走らないもん。



だから私たちのチームが遅くなるんだよね。



でもAさんは、バトンをもらってないとき走るよ。



友だちの困り感に気付く。

Aさんは、いつ走ったらいいかわからなかったのかなあ。



- 思っていること、感じていることをありのままに自分の言葉で表現できるように場の設定と安心して発言できるように幼児に寄り添う。

そうだよねえ。どうしてそうなるのだろうか。



- 指摘されたA児が傷つかないように配慮しながら、B児や周りの幼児の気付きを受け止める。
- A児への指摘だけで終わらないように、A児自身も、困っていることに気付くように、問いかける。

どうしてAさんはバトンをもらったとき走らないで、バトンをもらっていないとき走るのかな？



わからなかったのかAさんに聞いてみよう。



○友だちの困り感に気付かせ、自らかかわる場面を大切にする。



リレーでは、いつ走ったらいいかわからないんだよ。

A児

○分からないことを、自分で確かめることの大切さに気付かせ、その行動を認め、ほめる。

Aさんは、いつ走っていいかわからなくて、こまっていたんだね。



○A児の気持ちを受け止め、チームとして、どうすればよいか問いかける。

Aさんは、困っていたんだね。どうしようか？



チームで、できることを考える。

まっているとき「次はAさんだよ。」って、言ったらいいよね。



○A児自身だけが改善するのではなく、チームとして取り組む方法があることに気付かせる。

「バトンをもらったら、すぐ走ってね。」って言ったらいいよね。



みんなができることは、どんなことがあるかな？



Aさんも一緒にチームのみんなで練習しよう。



○幼児の考えや気付きを受け止めながら、チームのために一人一人が意識してリレーに取り組むことが大切なことに気付かせていく。

うん 練習しよう。



A児

みんなで考えたことを、みんなでやってみよう。



チームで、練習する。

次はAさんだよ。がんばれー。



○チームで考えたことを、すぐにやってみようという幼児の思いを大切に場の設定をし、活動を見守る。

Aさん、ハイ、走ってー。



○チームで考えたことを生かして、みんなで頑張っていることを認め、ほめる。

Aさん、ここだよー。ここまできてー。



みんなで考えたことを、一生懸命にやっていたね。みんなの力はすごいね。困ったこと気付いたことを伝え合うと、楽しく遊ぶことが出来るね。Bくんも、Aさんも、みんな楽しそうだったね



みんなありがとう。リレーっておもしろいね。



A児